

神を畏れない者の最後

ダニエル書5章

その事の解き明かしはこうです、メネは神があなたの治世を数えて、これをその終りに至らせたことをいうのです。(26)

ネブカデネザルが王を退いた後、何代か王が続き、やがてバビロニア帝国最後の王ベルシヤザルの時代となりました。彼はバビロンの繁栄のゆえに高ぶっていました。

ある日宮殿で大宴会を催していたとき、王はエルサレムの神殿から奪い取ってきた聖具を持って来させ、その金銀の器で酒を飲んでいました。すると突然、人間の手の指が現れ、宮殿の壁に不思議な文字を書きました。これを見た王は恐ろしさのあまりに震え、文字を解読する知者を求めました。この王の求めにより、ダニエルが再び呼び出されました。ダニエルは神の審きを語るその文字を解き明かしました。すなわち、王の治世は終わりとなり、国家は他の国々に分割されるというものでした。自分たちの絶大な権力を誇り、繁栄の上に安住して真の神を畏れることをしなかつたベルシヤザル王の治世は、神によつて終わりを告げられたのです。彼が無視して捨て去つた神によつて、彼は捨てられることになつたのです。ダニエルが解き明かしたその夜、王は殺され、バビロニア帝国は滅亡しました。

物事が順調に進んでいるときにこそ、わたしたちは真の神を畏れ敬い、自らを低くすべきです。自分の力によつて今の良い立場を得たのではなく、天の神の恵みと憐れみのゆえに全てのものを与えられたのですから。